



RUNNER

活動の現場……………2

自然環境保全センター新任職員

井上さん&大森さんにインタビューしちゃいました…4

森田学校2015 “Final”

夏季野生動物保護セミナー報告……………6



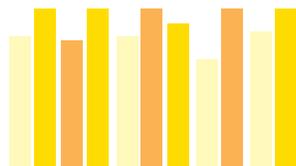
～On your side～ 動物たちの立場になって……8

徒然ボランティア日記……………9

木の実の雑学……………10

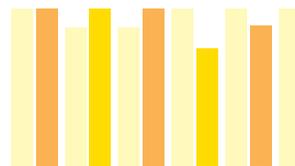
足環プロジェクト……………11

インフォメーション……………12



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



第4回春休み子ども体験教室 報告

桜も咲き始め春本番を思わせる3月28日、第4回春休み子ども体験 教室が行われました。今回は県内各地からの参加を願って、初めて県の広報に募集案内を掲載しました。結果は川崎、横浜、綾瀬の各市から6名の参加がありました。6名全員が初めての参加ですべてに興味を持って参加していました。

この日は朝から快晴の暖かい日で、午前中の野鳥観察では付き添いの父母や祖母、スタッフ、子ども達と15名を超える人数で野鳥を求めて保全センターの谷戸に入りました、途中探鳥をしている人にホンドリスとタヌキが出たとの情報を得て楽しみに探鳥しましたが、シジュウカラ、メジロ、カルガモ、ダイサギなどを発見しました。いろいろな鳴き声はすれども姿を発見することが出来ませんでした。谷戸を出て浄水場の上空でカラスとチョウゲンボウのバトルを見つけ、皆でしばし体の小さなチョウゲンボウを励ましながらこのバトルを見物しました。野鳥観察も終に近づきハビリセンターの池際にある柳の木に2羽のカワセミを発見して、フィールドスコープにとらえてみんなでその美しさに大喜びしました。午後の体験も楽しく進み、最後の巣箱づくりは悪戦苦闘の末無事完成することが出来ました。完成した巣箱を前に記念写真を撮り、無事に終了することが出来ました。



イオン・幸せの黄色いレシートキャンペーン 報告

5月11日、イオン秦野店の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に7人で参加してきました。

毎月11日にイオン系列の各店舗で行われている「イオン・幸せの黄色いレシートキャンペーン」ではその日に発行されたレシートを希望の団体のボックスにいれると総投函金額の1%分が寄付される、というものです。昨年度、救護の会は1年間で26,200円分の事務用品を購入させて頂きました。(毎年ありがとうございます)今回はイオン秦野店の正面玄関で会の紹介を行って来ました。一日の間人手が途絶えることもなく、頂いたレシートの整理も滞りなく終わりました。他の団体さんも熱心に活動していらっしゃる、身が引き締まる1日でもありました。



2014年度 野生動物救護の会総会 報告

5月30日12時30分より神奈川県自然環境保全センターレクチャールームにおいて通常総会を執り行いました。会員総数78名中出席者数53名(本人出席15名、委任状出席38名)で、会員総数の過半数の出席で総会は成立となりました。議長 三輪早見で議事に入り、2014年度の事業報告、決算報告、監査報告、2015年度の事業計画、予算案の報告を行い満場一致で承認されました。最後に役員の変更を行い、渡辺優子氏、佐藤信敏氏、遊佐弘司氏、佐藤幸太郎氏、安井啓子氏、平沼亜矢子氏、渡辺みずほ氏が満場一致で再選されました。また引き続き渡辺優子氏が理事長として、佐藤信敏氏・佐藤幸太郎氏が副理事長として就任致しました。続いて安井氏による活動報告「保全センター谷戸のムササビ調査報告」「フクロウ調査報告」が行われました。ムササビの調査は東京農業大学の安藤先生と学生さんたちとの共同調査で、夜間ムササビが巣箱から飛び立つ姿が動画で撮られており、貴重な 記録を見ることができました。また、フクロウの調査では巣箱の中で2羽のヒナが成長する姿が見られ、会員さんたちの興味を誘っていました。

総会終了後、場所を七沢森林公園に移し会員さんたちの交流を深めるべくバーベキューを行いました。幸い天候にも恵まれ、きれいな空気と豊かな自然の中で、皆さんで楽しい時間を過ごしました。

準備や片づけにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



平成27年度 野生動物救護ボランティア講習会 報告

今年の野生動物救護ボランティア講習会は6月20日・21日に神奈川県自然環境保全センター・神奈川県獣医師会・野生動物救護の会の共催で実施されました。40名の募集に対して多数の応募があり両日の講習会に参加されました。毎年募集人数を越える応募があることから、県民の野生動物救護への関心の高さがわかります。今年度は男性の参加は少なく8割以上は女性でした。また小学生も数名ありました。20日は晴れ、21日は小雨の天気でしたが予定通りに無事終了しました。講習会の内容は「野生動物救護の理念と目的」「野生動物を扱う際の衛生管理」「野生動物関係の法規」「野生動物救護の現状とボランティア活動」「応急処置と搬送 幼鳥の食性と給餌」「ボランティア活動の実際」「体験と見学」です。受講者はどれも熱心に耳を傾け、ますます救護活動への思いを深めたものと思います。野生動物救護の会からは12名がスタッフとして参加し、いろいろな活動を積極的に行いました。また救護の会のパンフレットや誤認保護と救護原因のチラシやランナーの展示紹介を行いました。それに各種グッズも展示し募金をされた方に差し上げました。救護の会が中心となって実施した「体験と見学・ボランティア活動の実際」に、受講者は特に興味を示し関心を寄せていたように思います。

これから3日間の自主研修で救護活動の実際を体験されて多くの方がボランティア登録をしてくれるものと期待しています。さらに野生動物救護の会にも加入していただき、野生動物救護を通しての自然環境の保全活動と一緒に取り組んでいければと願っています。



第5回 野生動物を学ぶ～夏休み子ども体験教室～ 報告

8月1日に自然環境保全センターにて「第5回野生動物を学ぶ 夏休み子ども体験教室」が開催されました。小学校高学年を対象に傷ついた野生動物との触れ合いを通し、野生動物の取り巻く問題について学び、人間と動物が共存するためにはどうしたらよいかを考える内容になっています。

とても暑い中、3名のお子さんが参加、午前中はまず3班に分かれてお掃除と餌やりを体験してもらいました。普段見かけたことがあると言っていたトビや、ヒヨドリ、アオサギもこんなに間近に見たのは初めてだと思います。どうしてここに来ることになったのか、スタッフの話に熱心に耳を傾けながら、観察、作業していました。その後仔ダヌキを触り、抱っこしたり、ツバメのさしえをしてふれあい、動物たちの重さや体温(温もり)を感じてもらいました。そしてヒヨドリの放野を行いました。最初は中々飛び立たなかったのですが、1羽が飛び立つとつられて2羽目、そして最後の1羽も無事に放野。そのうち、みんな積極的にランチタイムには質問も飛び出しましたが、中にはツバメが低く飛ぶと雨が降るといのはなぜ?という、情けないことに答えられなかった質問や、保護と言っているのに餌にシカの肉をあげるのはなんで?などの質問も飛び出して、興味を持ってくれたかな!と感じました。途中でもらったチョウゲンボウの羽をうれしそうに帽子に差して被っていたのが印象的でした。午前中は今年一番の暑さという中みんな汗だくになりながらの体験教室になりました。



午後からは屋内での学習です。まずは野生動物のケガの原因を知り、対策を考える学習です。スライドを見ながら身近に住んでいる野生動物について学び、野生動物のケガの原因を予想しました。その後センター獣医師の井上さんから野生動物救護の現状を学び、どうしたらケガを少なくできるのか参加者ひとりひとりが考え意見を出し合いました。次に野生動物を守る方法を食べ物との関係から考える学習です。各自思いつく野生動物とその動物が何を食べているかをワークシートに記入し、それぞれ発表しました。そしてそこから野生動物と人間の食べ物の違いをさまざまな角度から考え、自然が壊されると野生動物はどうなるのか、野生動物を守るためには自分は何ができるのかを考え発表しあいました。身近にいる野生動物に実際に触れ合い、現状を知ったことにより、参加者の皆さんが人間と野生動物が共存するために何をしたらよいかを考えるきっかけになったのではないかと思います。最後に扇子作りをしました。スタンプを押したり、絵を描いたり、デコレーションをほどこしたりと、それぞれ素敵な扇子が完成し、記念撮影をしました。

毎年この体験教室を開催しています。小学生の皆さん、是非ご参加ください。お待ちしております。



井上さん&大森さんにインタビューしちゃいました

今年度から自然環境保全センター自然保護課に赴任された、獣医師の井上さんと飼育担当の大森さん。彼女たちはいったいどんな方たちなのでしょう？まだ直接お会いしたことのない皆さんに、先日行ったインタビューを通してお二人の人となりをご紹介します！

——お二人とも保全センターに赴任されて数ヶ月経ちましたが、ずばり、ここの仕事はいかがですか？慣れましたか？

井上:動物が好きなので、一緒にいられるのが楽しいし嬉しいです。まだ慣れていないので、要領よく立ち



仔タヌキを抱く 井上さん

回れているか自信がないですが、とにかく忙しく、一日があっという間に終わってしまいます。時間に余裕があったらもっと細部まで動物のケアをしたいのですが、事務仕事もなかなか難しいで

すね...

大森:動物たちと関わる仕事ですのですごく楽しいのですが、いつ何の動物がどのような状態で運び込まれて来るかわからないので毎日緊張の連続です。

——印象に残っている出来後やエピソードなどは？

井上:6月に赴任して、いきなりボランティア講習会で講師として皆さんの前で講義をしましたが、その時は教科書で得た知識をお話するので精一杯でした。数か月間実際に傷病鳥獣に触れてみて、実感として理解したことがたくさんあります。やはり自分で体験してみないとわからない事が多数あるとしみじみ感じています。誤認保護(保護する必要のない巣立ち雛などを誤って保護してしまうこと)のヒナなどが運び込まれ、本来なら成長できたはずの個体が、ここでの環境に適応出来ずに亡くなってしまうこともあります。そういった動物たちの死を無駄にしない、次につなが

る保護活動をしていきたいですね。

大森:今年保護されたタヌキですね。瀕死の重傷で運び込まれてほぼ助からないと思われていたのに、今では人間を襲うくらい元気に回復して放野も視野に入るところまで来ました。どんな状態でもあきらめちゃいけないと言うことをこのタヌキに教えられましたね。その反面、長い間ここで生活しているチュウサギが急に状態が悪くなったり...、まだまだわからない事が多いです。あと、ムササビの赤ちゃん。一生懸命育てていたのですが、残念な結果になってしまいました。今後もっと研究して生存率を高めたいです。

——お二人が動物関係の仕事を目指したのはなぜですか？きっかけなどは？

井上:中学生のとき、お風呂にはいつているときに犬の遠吠えを聞いて「不幸な犬を一匹でも減らしたい」と思ったんです。

大森・インタビューー:え〜?!犬の遠吠えですか！(笑)

井上:獣医師になって、臨床の現場で働くことが憧れでしたが、数年間動物病院に勤務した後、開業は諦めて公務員になりました。6年間も大学に通わせてもらって、これ以上親に負担をかけられませんでしたから。



インコヨリの状態を確認する大森さん

大森:小学校3年生のとき、校庭でキジバトのヒナを拾いました。今思えば誤認保護なんです(笑)。当時は野生動物を保護してくれる施設があることなど知りませんでしたから、子どもながら本で飼育の仕方を調べて世話をしたのですが

亡くなってしまいました。

近所には、野良猫を拾っては私の家に来て、「どうしよう…」と相談してくる友達がいたり。子どもの頃の“動物を拾っても相談するところが無い”という経験から身近な動物を保護した時に力になれる仕事をしたいと思ったんです。獣医さんのように治療をするのではなく、もっと密接に動物と関わる“飼育”がしたかったんだと思います。

——子どもの頃から今までに飼ったことのある動物は？

井上:十姉妹、文鳥、セキセイインコ、ウサギ(ロップイヤー)、犬(マルチーズ、ビーグル)、猫。
愛情が分散されるような気がして多頭飼いはしていません。常に一匹ずつ飼っていて、今は猫ちゃんだけです。

大森:文鳥、ワカケホンセイインコ、ウズラ。
ウズラは癲癇持ちで、夜間は二時間おきに発作を起こすので、その度に起きて世話をしていました。なでてあげると発作が治まっておとなしくなったんですよ。今はワカケホンセイインコを一羽飼っています。

——特に好きな動物はなんですか？

井上:動物全般が好きですが、特に好きなのは犬ですね。あとは牛かな。ここに来る前は家畜保健所に勤務していたので、牛に触れる機会が多かったですから。

大森:う～ん、決めがたい(笑)。強いて言えば鳥全般が好きですね。タヌキも好きです。

——趣味はなんですか？休日は何をしていますか？

大森:仕事が趣味みたいなものですかね(笑)。

井上:おお、さすが！(笑)

大森:センターでの仕事以外にも色々な場所で野生動物関係の活動をしているので。

井上:かつては旅行でしたが、今は家飲み(笑)。
旅行は国内外問わず、色々な場所によく出かけていました。現在は家で酪農を営んでいるので、なかなか旅行もできないんですよ。

——今後、センターでやってみたい、挑戦してみたい事などはありますか？

井上:ボランティアさんがもっと根付きやすいような環境を作りたいです。
あと、動物たちの個体管理をもう少ししっかり出来るようにしたいですね。体重表と連係して、個体ごとの体調の推移を見守れるようなシステムができればいいかな。
(大森さんも大きく頷く)

大森:”ヒナ図鑑”を作りたいです。誰が見ても一目で鳥の種類が判別できるようなわかりやすい物が良いですね。産まれたばかりのヒナを見分けるのは本当に難しいですから。

——それでは最後にボランティアの皆さんにメッセージをお願いします。

大森:傷病鳥獣保護はボランティアさんをはじめ、多くの方々に支えられて成り立っていると実感しています。ボランティアさん無しには立ち行かないので是非遊びに来てください。

井上:気軽に顔を見せに来てくださいね。



大森 郁代
自然環境保全センター
自然保護課
飼育担当(非常勤職員)
198★年10月生まれ
神奈川県相模原市出身
学生時代は千葉県で過ごす

井上 史
自然環境保全センター
自然保護課 獣医師
196★年6月生まれ
神奈川県横浜市出身
両親が関西出身のため、幼少の頃は関西弁と標準語のバイリンガル。

終始和やかに楽しいお話を聞かせてくれた井上さんと大森さん。お忙しいなかありがとうございました！

森田学校 2015 “Final” 夏季野生動物保護セミナー 報告

会報前号で募集が行われた環境獣医学教育への参加報告をいたします。

森田学校では夏の北海道中標津町で7泊8日をかけて野生動物のレスキューを中心に、野生動物保護（傷病保護・希少種保護）の実例を体験したり、講義を受けて生命の尊さと自然の大切さを学びました。私は家族の強い勧めもあってスキルアップのために次世代の学びの場に思い切って飛び込んできました。当学校先輩である鶴飼さん、夏美さん、同班の黒田さん、次班の名久井さんらの働きには及ばなかったものの、無事第872号の修了証を頂くことができました。

【毎日の作業】

到着翌日より朝6時にオオハクチョウの鳴き声で目覚め、動物の世話が始まります。鳥類は他にトビ、ハト、哺乳類はポニー、エゾシカで頭数は少なく高齢であるため、給餌の心配りは細やかにしなければいけません。5人でスタートした班に次班の5人が加わり10人に増えた時、最もきつい糞出し作業があるのですが、皆驚く程よく働き心一つにすることができました。



【実習】

鳥の保定、包帯法、個体計測、強制給餌、採血、血液検査が行われました。大型鳥類の保定には専用のバンドがあります。なるべく苦しめずに検査を終えるために緊張が続きました。



【講義】

カリキュラムの中で、今回特別に我が班長として日本学術振興会(JSPS)フェローの近藤紀子博士が参加され、「ハシブトガラスの研究」が発表されました。カラスはその黒い姿ゆえに恐れられたり、害鳥と思われたいしていますが、本当はとても賢く、愛らしい鳥なのだそうです。成鳥は縄張り型社会を作り、若鳥は離合集散社会（小集団がくっついたり離れたりする）を作ります。同じ相手に頻繁に会うのでその中でなるべく闘争を回避するため、声・姿などの個体認識能力が非常に高いそうです。近藤さんの講義の中で、例えばカラスAがよく知っているカラスBに遭遇した時に、もしBが別の個体の声を出したときにAはとても驚くという事象を「期待違反法」という実験方法で確認されたとの説明がありました。他には、鼻毛がある（ミヤマガラスにはない）等、奥深く広くカラスの世界を知ることができました。



【視察】

他施設での研修は、釧路市動物園、環境省釧路湿原野生生物保護センター、釧路湿原温根内ビジターセンター、オオカミネイチャースクール、標津サーモン科学館、野付半島ネイチャーセンターなどで行なわれ、講師陣の熱心な説明に一同聞き入っていました。オオカミネイチャースクールの桑原先生には、1日に1.3kgの肉を食べる「トッププレデター（頂上捕食者）」である狼が、服従してお腹を見せていました。



【生活】

ほぼ完全自炊とは言え、道産の食材を豊富に使ったグルメ生活は、日々の学びと労働を支えてくれました。森田先生の奥様の手料理の差入れは、ホッカイシマエビとイクラのちらし寿司に始まり、標津サーモン科学館で解剖した天然サケのフライでしめくられました。圧巻は次班のハンバーグステーキディナーデザート付きでした。



【鳥類の変化】

中標津の鳥は41科177種で、カッコウ、フクロウ、エゾセンニュウが減り、オオセグロカモメ、トビ、カラス、カラ類、ハクセキレイが増えています。温暖化、農地拡大の影響であり、オジロワシが市街地に来るようになりました。道東の他の地域には、川が凍らなくなったためツルが留鳥として増えているなどの変化があります。

【探鳥会】

18時頃出発し、アイヌの信仰の対象である希少種のシマフクロウの見られる所へ12人で出掛けました。沈黙の待機が続いた後、高いポールの上に一羽の影が現れ、三方からの電灯に照らされて大きなフクロウの姿が浮かび上がりました。続いて森の入り口に巣立ちびなが一羽そしてもう一羽。私達の努力を認めて、森の神様があらためて歓迎してくれたかの様に思えました。

【番外編】

8日間のセミナー終了後、疲れ果てた姿の私を「お帰りなさい」と迎えてくれたのは、ちょうど30年前に牧場実習で1か月受け入れて下さった「弾正原牧場」のご夫婦でした。自作の無農薬野菜でもてなされ、元気を取り戻し、無事帰路につくことができました。

北に行く程、動物の体格が大きくなる「ベルクマンの法則」の様に、人間の心も大きく広くなるのだと知りました。



～参考文献&図書～

- ①近藤紀子・伊澤栄一「鳥合の衆ではないカラスの群れ」遺伝 Vol67.NO1 P10-15
- ②動物医日記 森田正治 こうち書房
- ③野生動物のレスキューマニュアル 森田正治 文永堂出版
- ④オオカミの謎 桑原康生 誠文堂新光社

【セミナーを体験して】

若き日に地理学を志していた事もあった森田獣医師の学校では、自然科学、人文科学の総合教育を学べ、あらためて師の知の深さと広さに驚きました。鹿との関わりの中で「養鹿」という発想も浮かぶそうです。毎晩就寝前まで鋭い論理を柔和な言葉で現代社会について語り、私達と論ずる姿に、亡き父の面影を重ね合わせていました。

「動物愛護と自然環境保全をごっちゃにはしてはいけない。」「死と向かうことでまた命の大切さとも向かい合い、生を尊く思う。」「地球全体の姿を一頭一羽に見る、それが生態系の保全につながる。」

「戦争が最大の環境破壊である。」等のメッセージを受け取りました。



【終わりの言葉】

最終開催となった今回のセミナーに、笑顔で送り出して下さった方々、森田学校の教授陣、同じ班だった皆さん、中標津の暖かい人々、全てに感謝しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【中標津とは？】

日本語の「中」とアイヌ語の「シベツ=大きな川」に当て字した「標津」を組み合わせたもの



宇宙飛行士の毛利さんが宇宙船から地球を眺めたところ、日本列島で唯一見えた人工物は中標津の「格子状防風林」だったそうです。

～ On your side ～



動物たちの立場になって



ボランティア歴11年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
日々思う事を文章にしてみました。

この神奈川県自然環境保全センターを知ったのは2005年1月13日TBSテレビ放映「素敵な宇宙船地球号～里山いのちの物語～」という番組を“見て”だった。

まず一度見学に来たものの仕事が忙しく、本当にボランティア活動が出来る様になったのはそれから何と約1年後。

それが気付かぬうちにボランティア歴11年目になっているというから驚きで、早いなあ～。年取るワケだと思う。最初の頃は基本的な事＝水や餌の交換、掃除を済ませると洗濯物や食器の洗い物の片付け、動物用冷蔵庫の整理やミルワームの選別などをやっていて、動物たちを“見る”という事をしなかった。

いや思い付かなかった。

それが今はどうだ、来れば別館（小鳥部屋）にベタ付きでその部屋にいる子たちを“見て”いるのではないか。

心配で仕方ない。

立てなくなった水鳥をなみなみと水を張ったシンクに浮かべ、羽が濡れて沈み始め身体が冷えて来たのだろう、少し震えて来たのを見計らって引き揚げて軽くタオルで拭く。

さらに3回程タオルを取り替えながら陽にあてて羽繕いを促す。

すると嘴を羽に突っ込んで梳いたり羽ばたいてみたりと水鳥本来の生き生きとした仕草を見せてくれる。（*保全センター獣医さんの指導の下行っています）

それを1日数回繰り返す事で羽の撥水性を高め、浮いていられる時間が少しずつ長くなる。

水鳥は水鳥らしくいたいよね。

羽を傷めて飛べない猛禽たち。

本当なら彼らは高い所に止まって人を見下ろしている筈。

だったらせめて高い所や好きな場所へ移動出来る様にと色々な形の本を拾い組み合わせで止まれる場所を作ってみる。

最初は地面できよときよとしているが、暫くして様子を見に行くとあっちこっち移動して狭い中でも動き回っているのである。

猛禽は猛禽らしくあれ。

差し餌の外れた小鳥たち。

羽に包帯を巻いていても足にテーピングをしていても、冬の良く晴れた日には陽に当てる。

カゴごと、また元気な子は空いているフライングケージなどに放す。

そうすると間も無くリラックスし、身体が一部不自由でも動きが生き生きとして来るのだな。

五体満足なら太陽の下で飛び回り日向ぼっこをし、うたた寝をしている子たちなんだから。

鳥は鳥らしくいたいでしょ。……人もそうじゃないか。

自分らしく居られる、ストレスのない場所があり、そこにいたいと思う。安心するし落ち着く。

私は仕事柄身体はどこかを悪くしたり故障を来した人間を相手にしている。（*作者は看護師さん）具合が悪いから仕方がないとは言え、かなり我が儘でもある。でも言葉を話せない動物たちは黙って耐える事しか出来ない。

放っておいてよ、嫌だよと、痛いのにと言えない。特に鳥たち…その子の治療や観察のために捕まえるのだけれど、近づくだけで狭い籠の中で暴れるため、見る見るうちに羽がボロボロになっていく子も多い…それを見る度に胸が痛む。

可哀想で涙が出て来る時もある。鳥にとって羽は命なのにね……。

センターのケージは残念にも特に野生に帰れない子たちにはかなり限られた不自由な住まいであるが、どうしてあげれば少しでも自然な、より本来に近い姿で快適に安心して過ごせるかを本気で考え、それを常に頭に置いて作業をする様になったのはいつ頃からだったろう。

言葉を持たぬ動物たちを本当に思いやるとは、心の声に耳を澄ますという事は。彼らの多くは人との関わりの中での犠牲者なのだ。少し位大変でも面倒臭くても出来る事はやってあげないといけないうる。

素敵な宇宙船地球号は人間のためだけにあるのではない、またこの言葉も人のためだけであってはいけない。

～On your side～ 動物たちの立場になって。

みなさん、お久しぶりです。神奈川県自然環境保全センターでボランティアをしているSです。老人の介護と老犬の介護が重なり、センターでのボランティアをしばらくお休みしていましたが、老人は元気になり老犬は旅立ったのでこの春から復活しました。都合でお休みできるのもボランティアの良いところですね。この連載も再開しますのでどうぞよろしくお祈りします！

2015年5月〇日(*)

約1年半振りのセンターボランティア。時々顔を出してはいたけれど、本格的に動物たちのお世話をするのは本当に久しぶり。半ば浦島太郎状態で傷病舎へ。案の定レイアウトや備品の場所が変わっていて慣れるまで少々手こずったけれど、やっぱり動物達に関われるのは嬉しいものです。しかもこの季節は赤ちゃんラッシュ！様々な野鳥のヒナとタヌキやムササビなどのほ乳類の赤ちゃんたち。これが最高にカワイイ♡。こんなにカワイイ姿を間近に見られるんだからボランティアはやめられない。とは言いつつ、呑気に赤ちゃんたちに見とれてばかりいるわけではないのであしからず。とにかく忙しいのですよ、この時期は。次々に運びこまれてくる動物たちのケージの準備をしたり掃除をしたり、餌や水を配るだけでアツという間に時間が過ぎて1日が終わってしまう。学生時代、授業を聞いている時はあんなに時間が長く感じたのにね(´_`;)。

2015年6月〇日(*)

さあ、今日も朝から動物たちのお世話をがんばろう！と張り切ってセンターへ。巣箱の中でスヤスヤと眠っているムササビの赤ちゃんを起こしてミルクを飲ませる。誤嚥しないように注意しながら慎重に。人間の心配をよそに、チュパチュパと音を立て口の周りをミルクだらけにしながらから夢中で飲む姿はこれまた愛おしい。たくさん飲んで大きくなるんだよ。でも、君、そろそろミルクは卒業の時期なんだけど。。。 (汗)



ムササビの赤ちゃん

2015年7月☆日(*)

今日も朝から猛烈に暑い。まあ、夏だからしょうがないけど。冬の寒さに比べればましかな？などと思いつつながら本日もせっせと動物たちのお世話。この時期、傷病

食べ盛りのヒナたち



舎の別館はヒナを育てるための小鳥部屋になっていて、運ばれてきたヒナたちは一括してこの部屋へ入居。ヒナのお世話を任せてもらった私は鳥のお嬢様お坊ちゃんまたちの為にせっせと働く

のです。ちなみに、ヒナたちの体を冷やすことはできないので、真夏でもこの部屋に冷房はいれません。基本的に扉は閉め切り。必然的に部屋の中はサウナ状態。汗をダラダラ流しながら、無数に並ぶケージを一つずつ掃除して、水を取り替え、エサを配る。まだ自分でエサを食べることができない赤ちゃんたちには一羽ずつさし餌。一通り全員にエサを食べさせ終わるころには、最初にあげた子がまたピ〜ピ〜鳴いて「お腹空いた〜！」とアピール…。婆やは「ハイハイ、今あげますよ」と最初に戻って順番にさし餌。この作業がエンドレスに続くのであります。少しは痩せるかな？

2015年7月◇日(*)

おっと、隣の部屋に見慣れないケージがあると思って中を覗いてみると、アオバズクのヒナが！まだ頭にホワホワの綿毛のような羽が残っていてぬいぐるみみたい。地面に落ちているところを保護されたそうだけど、巣立ち前に巣から落ちて、お母さんとはぐれちゃったのかな？こんなカワイイ姿だけど、食べるのは生肉とコオロギなどの虫。この子は特にコオロギが好きみたいで口元に近づけると頭からかぶりつき(°Д°;)。小さくても立派な猛禽だもんね。



アオバズクのヒナ

次回は秋から冬の様子をお届けします。

木の実の雑学

いよいよ実りの秋がやってきました。ここでは秋の味覚の代表、木の实についての豆知識をご紹介します。

食欲の秋

秋は、海にも山にもおいしいものがいっぱいです。動物たちも食欲が増し、いろいろなものをいつもよりも多く食べるようになります。しかし、人間のようにグルメを楽しんでいるわけではありません。すぐにやってくる冬を乗り切るための準備をしているのです。

木の実の種類

この時期に豊富なのは、木の実です。たくさん種類の実があり、鳥をはじめ、いろいろな生き物が利用しています。

木の实には大きく分けて2つの種類があります。1つは「堅果」と呼ばれるグループで、硬い果皮を持つものです。ドングリが代表的ですが、これはブナ科の木の実の総称です。



マテバシイの実

この種類の木は栄養豊富な上に一度につく実の数が多いので、クマヤイノシシなど

の大きな動物もよく食べます。渋味の少ないマテバシイやスダジイは、炒ったりクッキーにしたりして人が食べることもできます。頼りにされているドングリですが、年によって凶作・豊作があり、少ない場合には人里までエサを探しにやってくる動物が増えるため、人と動物のトラブルが多くなる原因になります。

もう1つのグループは「漿果」と呼ばれるもので、みずみずしい果肉があります。赤や黒、紫色の小さな実をつけるものが多いですが、これは鳥に食べてもらうため。一口サイズの実に鳥の目につきやすい色をつけて、客寄せをしているというわけです。植物のしたたかな戦略にも驚かされますね。



ピラカンサの実を食べるヒヨドリ

保護センターにいる鳥たちが利用するのはこちらの漿果が多いので、身近で手に入ったらお土産に持って行ってあげると喜ぶでしょう。ただし、有毒なものもあるので、種類の確認と与える前の職員さんへの相談が必要です。

足環Project!!

足環プロジェクトとは？

足環を付けた放鳥個体を野外で発見もしくは再捕獲等することで、その個体の生存年数、移動範囲・距離などを知るための活動です。

◎今回は放鳥された個体はいませんでした。再保護された個体と自然の中で確認された個体の情報があります。

再保護

種類：トビ

再保護場所：藤沢市

再保護日：2014年8月11日

再放野日：2014年8月24日



2013年8月にカラスに襲われていた所を保護され、2013年12月に藤沢市で放野された個体です。約半年で金沢動物園にて再保護されたことが足環で確認されましたが、8月24日に再び放野することができました。

野外での確認情報

5月11日に藤沢市の小田急線の本鵠沼3号踏切付近にてD7の足環を装着したトビを見かけた、とのお知らせが届きました。

他にも複数のトビが見られ、仲間と仲良く暮らしているようです。



写真・情報提供：bikkeさん

★左足に**赤い足環**をつけた鳥を見かけたら、下記までご連絡下さ

NPO 法人 野生動物救護の会

TEL 0463-75-1830

e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または 神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 TEL 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>

インフォメーション

イベント

◆ワールドフェスタ・よこはま 2015

▽日時:10月10日(土)・11日(日) 10:00~17:00 ▽場所:横浜市 山下公園
☆秋の横浜を舞台に世界の衣・食・住・遊の要素を盛り込んだイベントが盛大に開催されます。

◆あつぎ環境フェア

▽日時:10月25日(日) ▽場所:厚木市 中央公園
☆厚木市主催の環境に優しいライフスタイルを考えるイベントです。

◆動物フェスティバル神奈川 2015 in はだの (第36回秦野市市民の日)

▽日時:11月3日(火) 10:00~16:00
▽場所:秦野市文化会館 及び特設会場(秦野市総合体育館前広場)
☆動物愛護精神の高揚と適正飼育について関心と理解を深めることを目的としたイベントです。

救護の会はそれぞれのイベントに出展し、普及啓発活動やグッズの販売を行います。
ボランティアスタッフも募集中!事務局までメール又は電話でご連絡ください。

修了式

◆野生動物救護ボランティア講習会 修了式

▽日時:9月27日(日) ▽場所:自然環境保全センター
☆今年度のボランティア講習を終えた皆さんの修了式です。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は9月25日、10月30日、11月27日
▽場所 秦野市立図書館
☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ
「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *



♪嬉しいお知らせ♪

救護の会の会員さんの平沼亜矢子さん、伊熊智子さん、三輪早見さんの3名が、長年のボランティア活動の功績を認められ、“野生鳥獣功労者”として、神奈川県より表彰されました。おめでとうございます!

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

- ★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)
- ★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)
- ★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方
年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2015年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙:大和田真彦(平沼亜矢子) 活動の現場:平沼亜矢子 井上さん大森さんにインタビューしちゃいました:神崎さつき 森田学校 2015"Final"夏季野生動物保護セミナー報告:中村ゆり
~on your side~動物たちの立場になって:伊熊智子(平沼亜矢子) 徒然ボランティア日記:神崎さつき
木の実の雑学:片瀬亜妃 足環 Project!!:渡辺優子(片瀬亜妃) インフォメーション:神崎さつき